



令和4年1月17日
唐津海上保安部

「令和3年 海難発生状況（速報）」

《 プレジャーボートの海難増加傾向 ～ 発航前点検の徹底を！～ 》

令和3年に唐津海上保安部管内（※1）で発生した船舶海難及び人身海難発生状況（速報）をとりまとめましたのでお知らせします。 ※1 伊万里海上保安署、杵岐海上保安署を除く
なお、本値は速報値であることから、確定後の値と異なる場合があります。

唐津海上保安部では、令和3年の海難発生状況を踏まえ、次に挙げる点に重点を置き、安全指導等で呼びかけて参ります。

- ① 船舶海難では、プレジャーボートによる機関故障が最も多く、整備不良、船体機器の老朽衰耗等が原因であることから、「日頃からの点検整備」、「発航前点検の徹底」
- ② 人身海難では、マリンレジャーに伴う海浜事故が最も多く、釣り中と遊泳中に発生したことから、「実施する活動の特殊性や注意事項」、「気象海象情報の入手活用」
- ③ 釣り中の事故者5人のうち、3人が救命胴衣非着用であり、過去10年の海中転落による死者の着用率も36%と低いことから「救命胴衣の着用徹底」
- ④ 4年ぶりに若年層（中学生以下）の海浜事故ゼロ。引き続き自治体の関係機関等と連携しながら、地域の小中学生に対する『海の安全教室』の開催等の取り組みを強化

I 船舶海難発生状況（詳細は別紙を参照願います）

(1) 船舶海難隻数

26隻（前年比7隻増）・・・【図 1-1】

(2) 船舶海難による死者数

0人（前年比増減なし）・・・【図 1-1】

(3) プレジャーボート海難隻数

18隻（前年比4隻増）・・・【図 1-4】

II 人身海難（※2）発生状況（詳細は別紙を参照願います）

(1) 人身海難事故者数

17人（前年比2人減）・・・【図 2-1】

(2) 人身海難に伴う死者数

7人（前年比増減なし）・・・【図 2-1】、【図 2-2】

(3) マリンレジャーに伴う事故者数

9人（前年比4人減）・・・【図 2-5】

※2 人身海難：海浜事故及び船舶海難以外の乗船者の人身事故

「令和3年 海難発生状況（速報）」別紙

目次

第Ⅰ 船舶海難発生状況（速報）

I-1	船舶海難発生状況〔過去10年(H24~R3)〕 P 1
I-2	海難種別発生状況〔R3・過去10年(H24~R3)〕 P 1
I-3	船舶種別発生状況の推移〔過去10年(H24~R3)〕 P 2
I-4	船舶種別発生状況〔R3・過去10年(H24~R3)〕 P 2
I-5	プレジャーボート海難種別発生状況〔R3・過去10年(H24~R3)〕 P 3
I-6	プレジャーボート運航不能海難内容別発生状況 (R3) P 3
I-7	プレジャーボート海難月別発生状況〔R3・過去10年(H24~R3)〕 P 4
I-8	漁船海難種別発生状況〔R3・過去10年(H24~R3)〕 P 4

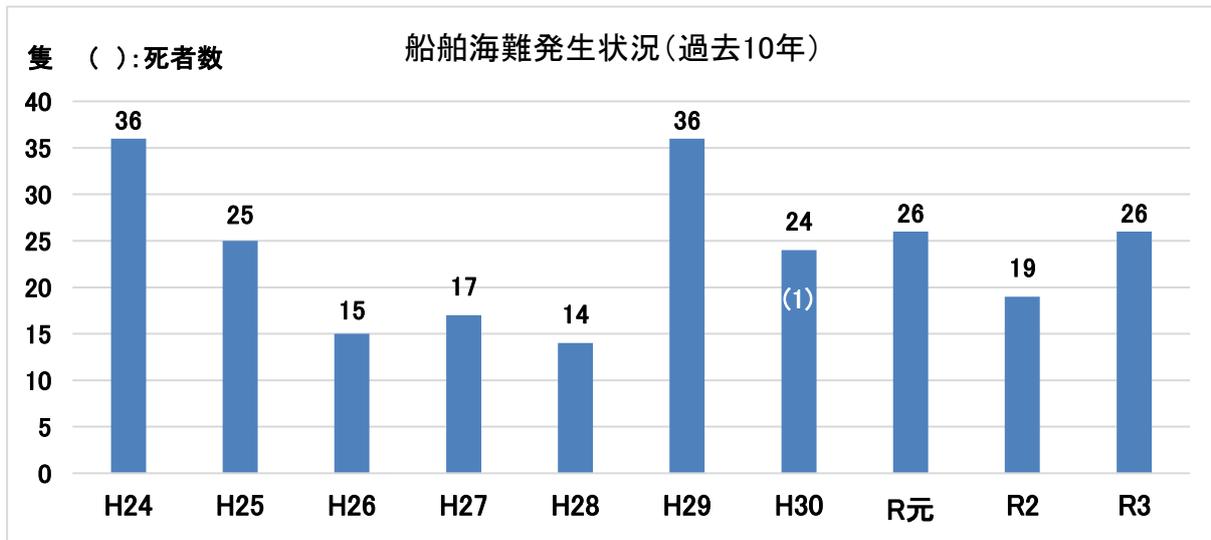
第Ⅱ 人身海難発生状況（速報）

Ⅱ-1	人身海難発生状況〔過去10年(H24~R3)〕 P 5
Ⅱ-2	人身海難内容別死者数の推移〔過去10年(H24~R3)〕 P 5
Ⅱ-3	人身海難区分別発生状況〔R3・過去10年(H24~R3)〕 P 6
Ⅱ-4	マリンレジャーに伴う事故者数の推移〔過去10年(H24~R3)〕 P 6
Ⅱ-5	マリンレジャーに伴う海浜事故発生状況（活動別） 〔R3・過去10年(H24~R3)〕 P 7
Ⅱ-6	釣り中の事故者数の推移〔過去10年(H24~R3)〕 P 7
Ⅱ-7	釣り中の死亡事故発生状況〔過去10年(H24~R3)〕 P 8
Ⅱ-8	若年層の事故者数の推移〔過去10年(H24~R3)〕 P 8

第 I 船舶海難発生状況（速報）

I-1 船舶海難発生状況〔過去10年（H24～R3）〕

図 1-1



➤ 船舶海難発生隻数は、H24年の36隻をピークに減少傾向にあったが、H29年に再び36隻に増加、その後は減少傾向にあったものの令和3年再び増加した。

I-2 海難種類別発生状況〔R3・過去10年（H24～R3）〕

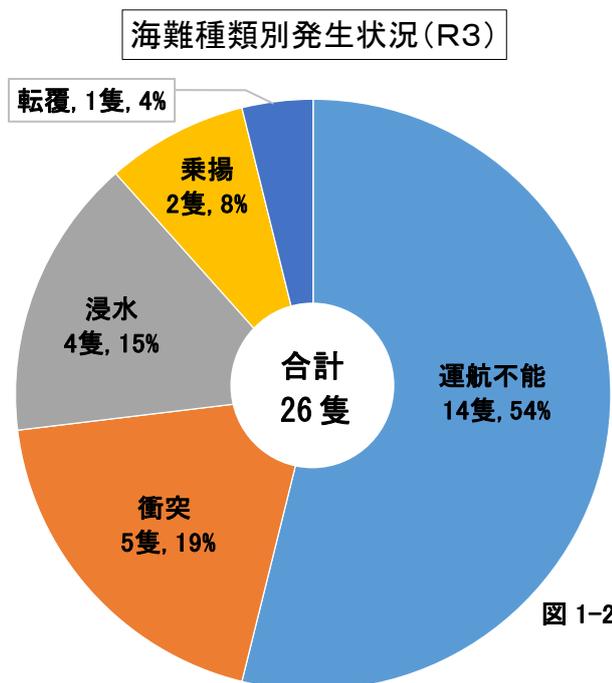


図 1-2

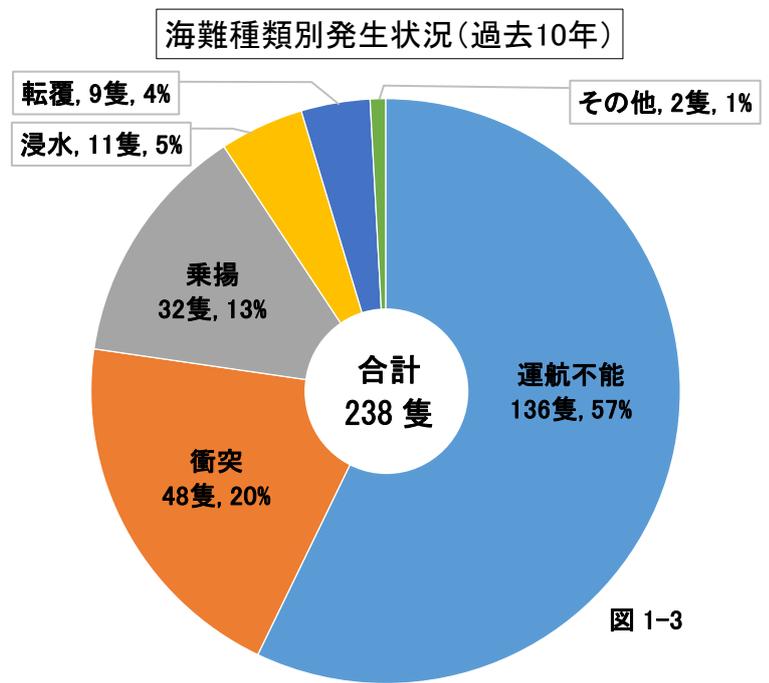


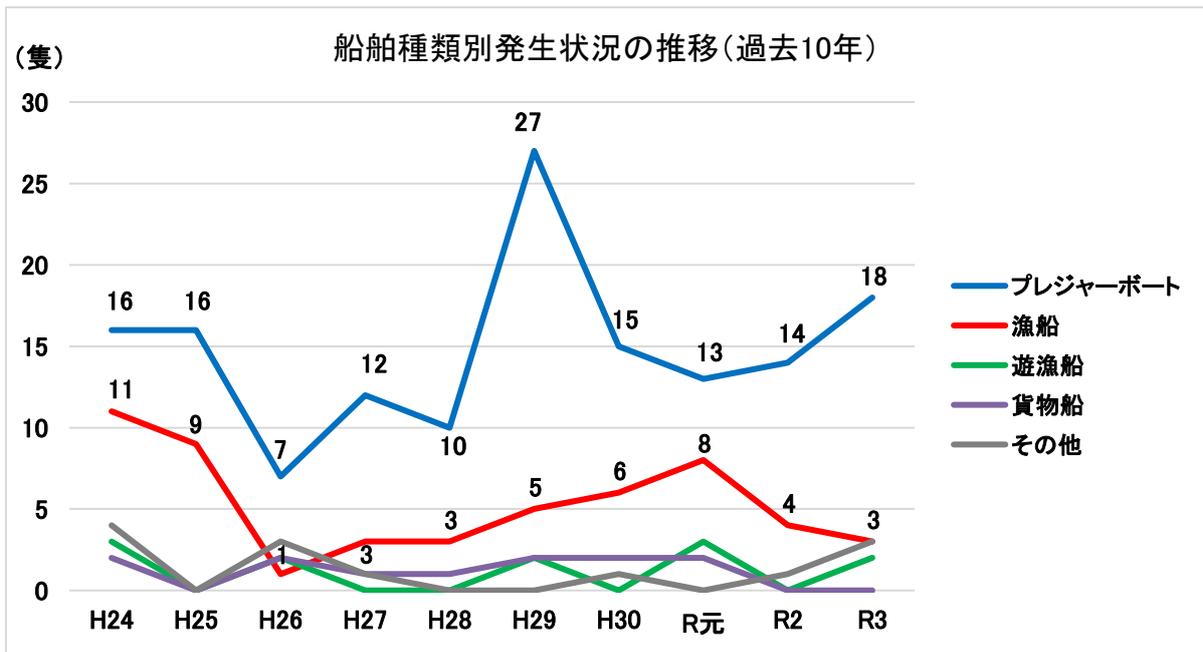
図 1-3

※ 運航不能：機関故障、バッテリー過放電、燃料欠乏等運航に必要な設備の故障により航行に支障が生じたもの

➤ 昨年、海難種類別では、過去10年と同様に運航不能が全体の5割以上を占め、以下、衝突、浸水の順に発生、例年と比べ浸水の割合が大きい。
 ➤ 過去10年では、運航不能、衝突、乗揚の順で発生している。

I-3 船舶種類別発生状況の推移〔過去10年（H24～R3）〕

図 1-4



- 船舶種類別では、プレジャーボート、漁船の順で発生している。
- プレジャーボートは、H29年大幅に増加、その後は減少傾向にあったが、R3年再び増加。
- 漁船海難は、H27年以降増加傾向にあったが、R2年以降減少している。

I-4 船舶種類別発生状況〔R3・過去10年（H24～R3）〕

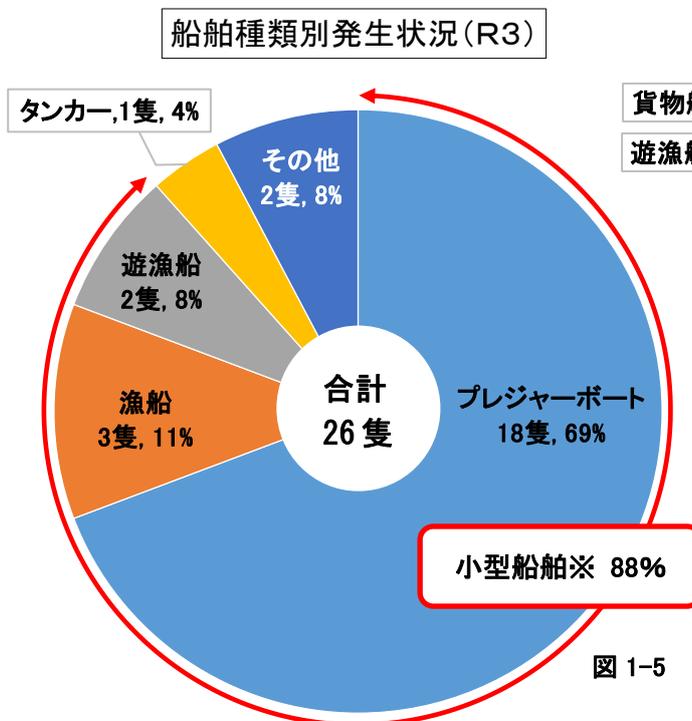


図 1-5

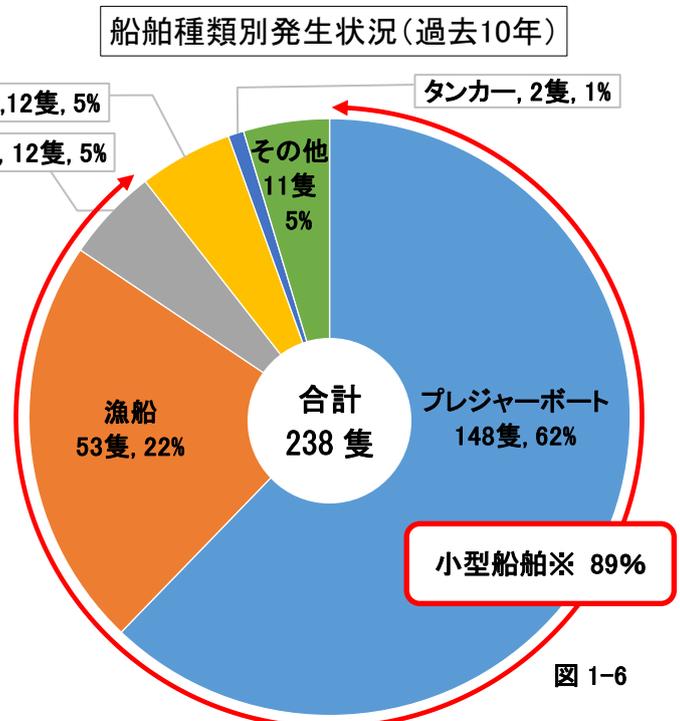
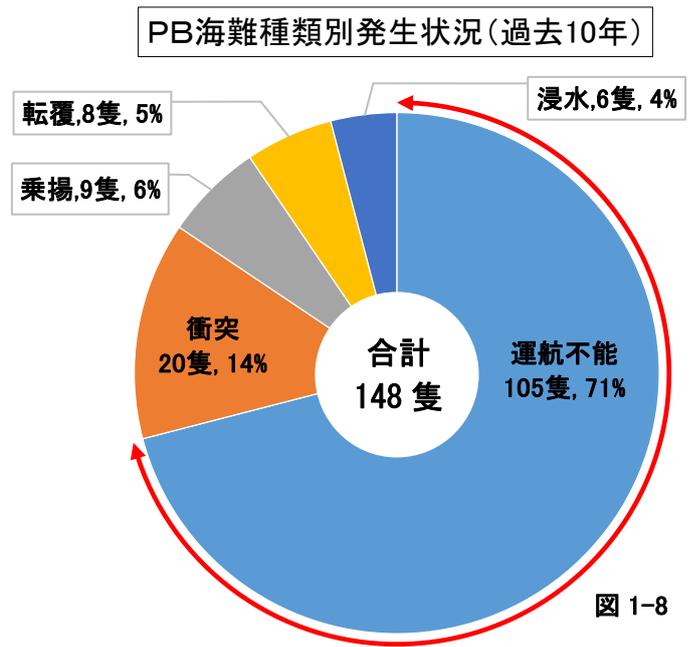
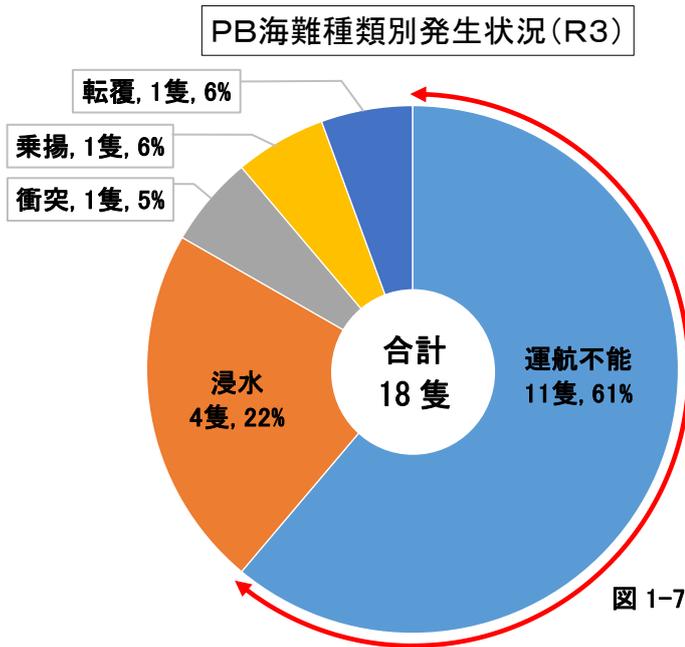


図 1-6

- 昨年の小型船舶※の海難は、過去10年と同様に全体の約9割を占めている。
- ※ 小型船舶：総トン数20トン未満の船舶（プレジャーボート、漁船、遊漁船等）

I-5 プレジャーボート海難種類別発生状況 [R3・過去10年 (H24~R3)]

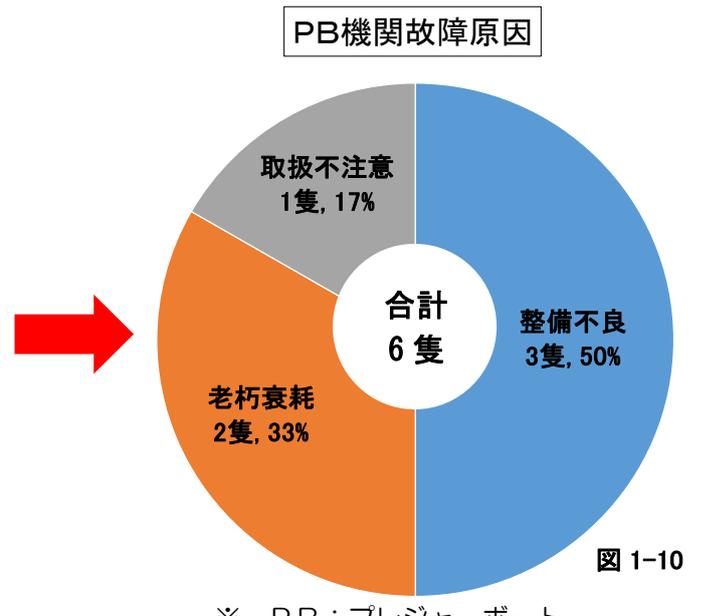
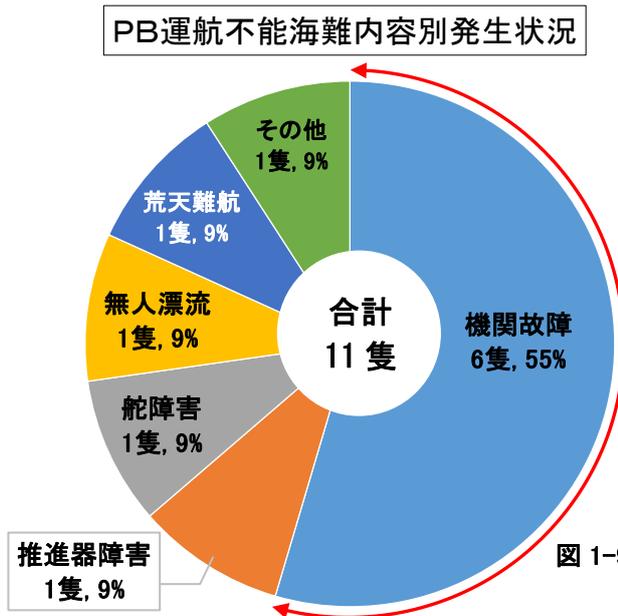


※ 運航不能：機関故障、バッテリー過放電、燃料欠乏等

※ PB：プレジャーボート

- 昨年、海難種類別では運航不能が全体の6割以上を占め、例年と比べ浸水の割合が大きい。
- 浸水の原因は、不可抗力1隻を除き、日頃の点検整備、発航前点検を行っていない機関及び船体機器の整備不良、老朽衰耗であった。
- 過去10年では、運航不能が全体の7割以上を占め、次いで衝突、乗揚の順で発生している。

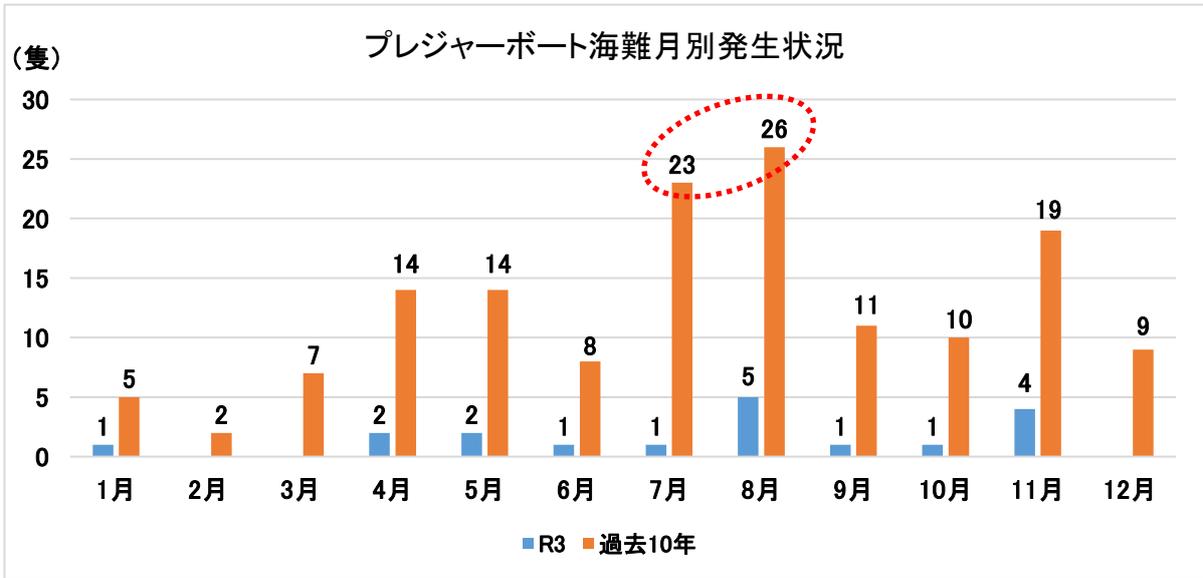
I-6 プレジャーボート運航不能海難内容別発生状況 (R3)



※ PB：プレジャーボート

- 昨年、プレジャーボートの海難は、機関故障が最も多く発生している。
- 機関故障の原因は、日頃の点検整備、発航前点検を行っていない整備不良等であった。

I-7 プレジャーボート海難月別発生状況 [R3・過去10年 (H24~R3)] 図1-11



- 過去10年、プレジャーボート月別発生状況は、7月、8月が最も多く発生している。
- 昨年は、8月、11月に多く発生、7月は少なかったものの例年に近い傾向であった。

I-8 漁船海難種類別発生状況 [R3・過去10年 (H24~R3)]

漁船海難種類別発生状況 (R3)

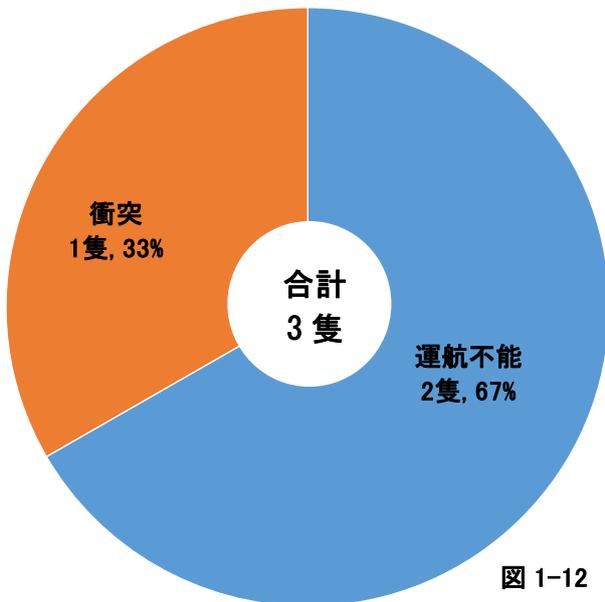


図1-12

漁船海難種類別発生状況 (過去10年)

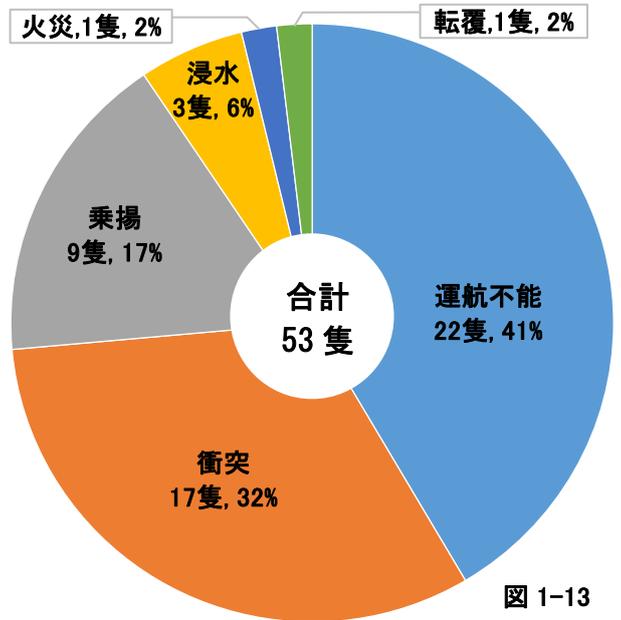


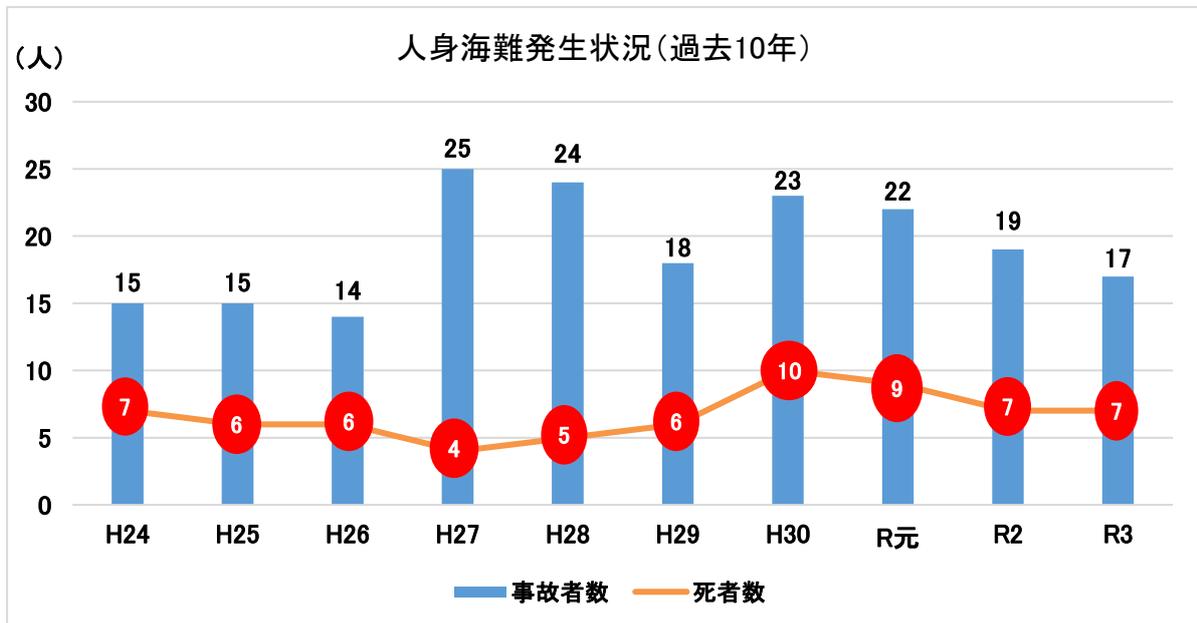
図1-13

- 昨年と過去10年、運航不能が最も多く、次いで衝突の順に発生している。

第Ⅱ 人身海難発生状況（速報）

Ⅱ－1 人身海難発生状況〔過去10年（H24～R3）〕

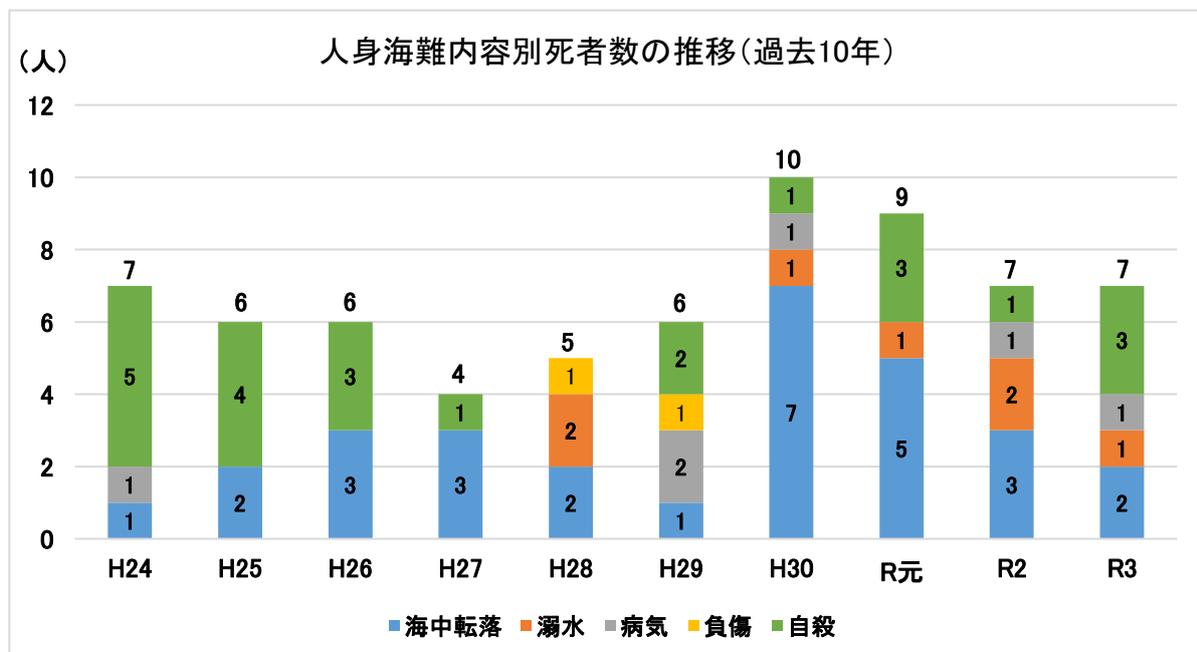
図 2-1



- 事故者数は、H27年以降、減少傾向にある。
- 死者数は、概ね横ばい状態にある。

Ⅱ－2 人身海難内容別死者数の推移〔過去10年（H24～R3）〕

図 2-2



- 過去10年、海中転落が最も多く、全体の43%を占めている。

Ⅱ－3 人身海難区分別発生状況〔R3・過去10年（H24～R3）〕

人身海難区分別発生状況(R3)

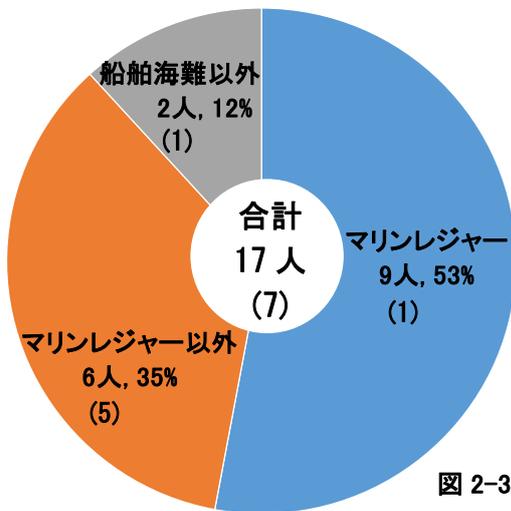


図 2-3

人身海難区分別発生状況(過去10年)

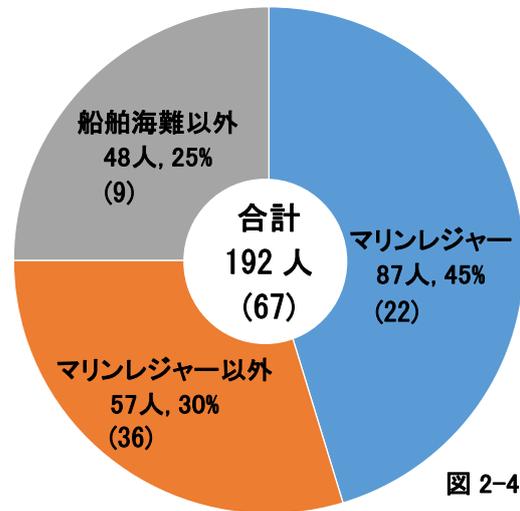
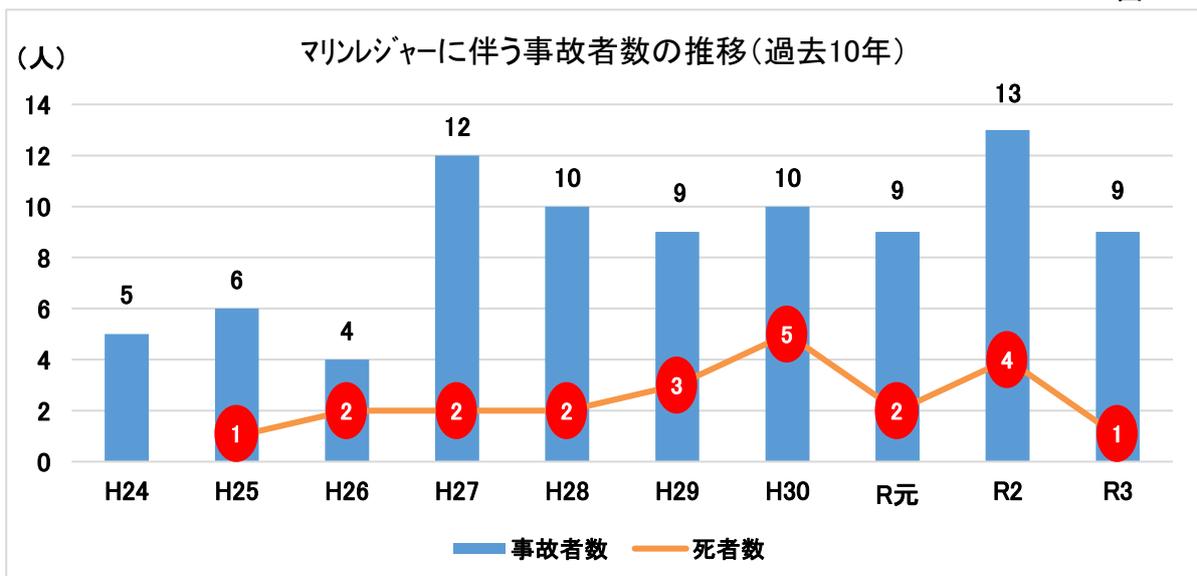


図 2-4

- 昨年は、マリンレジャーに伴う海浜事故が最も多く発生、全体の5割以上を占めている。
- 昨年も過去10年と同様、マリンレジャーに伴う海浜事故、マリンレジャー以外の海浜事故、船舶海難によらない乗船者の人身海難の順で発生している。
- ※ マリンレジャー以外の海浜事故とは、岸壁からの転落、負傷、自殺等
- ※ 船舶海難によらない乗船者の人身海難とは、船舶からの海中転落、船内における病気、負傷等
- ※ グラフ内（ ）は、死者数

Ⅱ－4 マリンレジャーに伴う事故者数の推移〔過去10年（H24～R3）〕

図 2-5



- R2年は過去10年で最多の事故者数を記録したものの、H28年以降横ばい状態にある。
- 昨年の死者数は、過去10年で2番目に少ない。

II-5 マリンレジャーに伴う海浜事故発生状況（活動別）〔R3・過去10年（H24～R3）〕

マリレに伴う海浜事故内訳（R3）

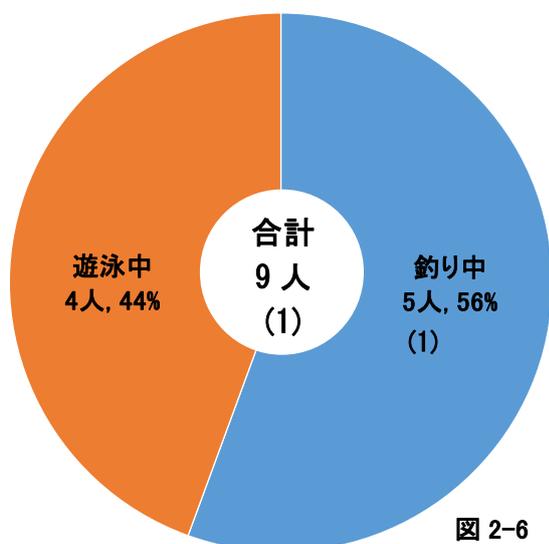


図 2-6

マリレに伴う海浜事故内訳（過去10年）

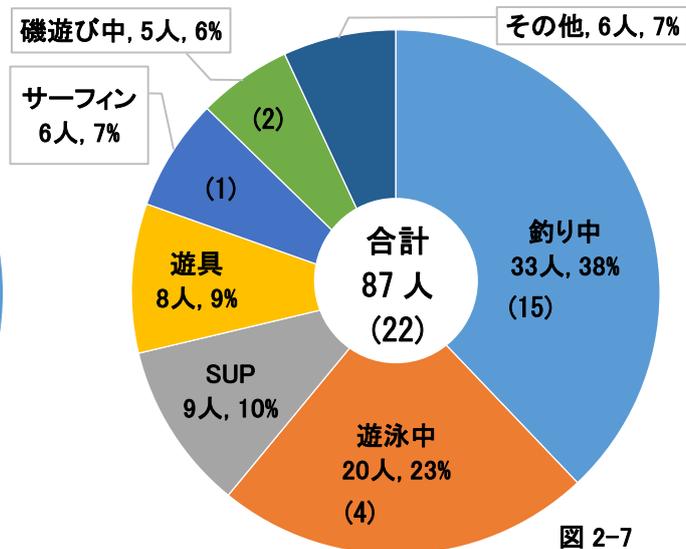


図 2-7

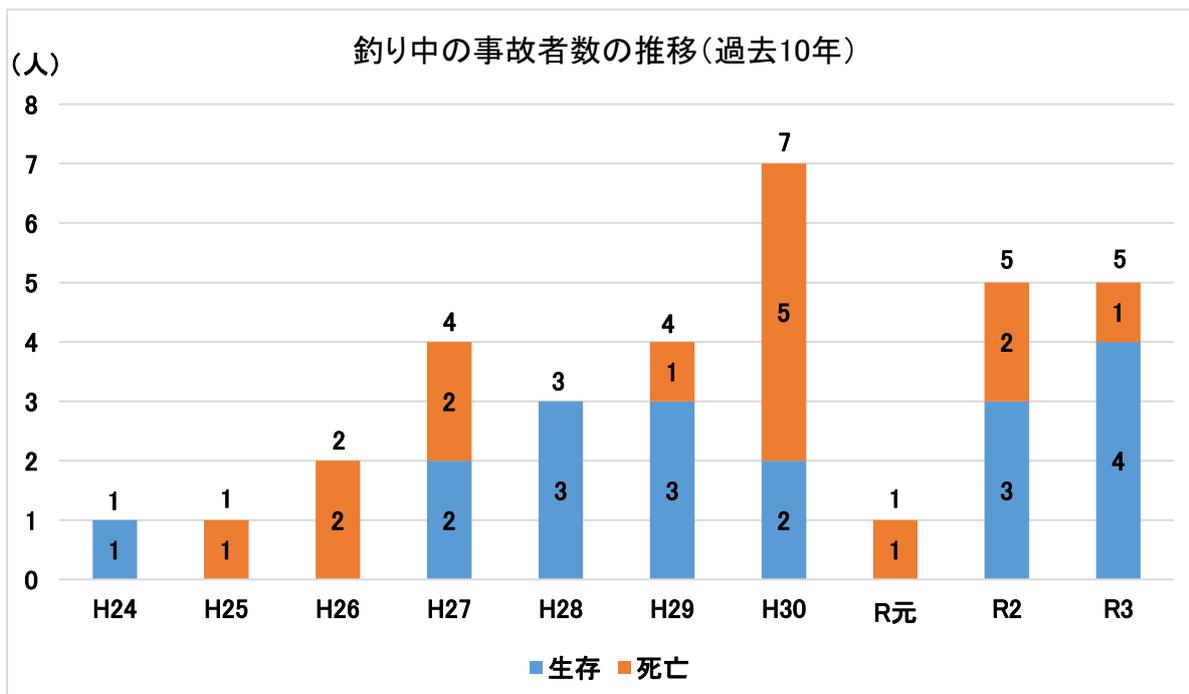
※ “マリレ”とは、マリンレジャーの意味

※ SUP:スタンドアップパドルボード

- 昨年の事故は、釣り中と遊泳中のみで、SUP等の事故はなかった。
 - 過去10年も釣り中と遊泳中の事故が最も多く、死者数は全体の約9割を占めている。
- ※ グラフ内（ ）は、死者数

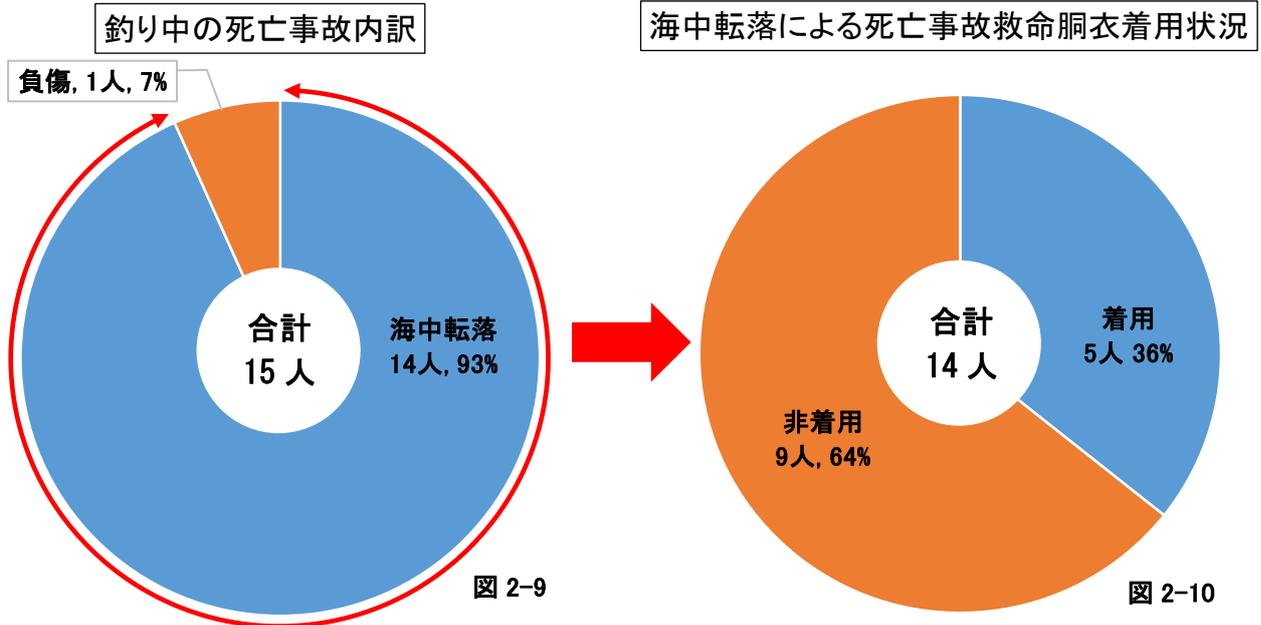
II-6 釣り中の事故者数の推移〔過去10年（H24～R3）〕

図 2-8



- 事故者数は、R元年に一旦減少したもののその後は増加傾向にある。
- 過去10年、死者数はH30年を除き横ばい状態にある。

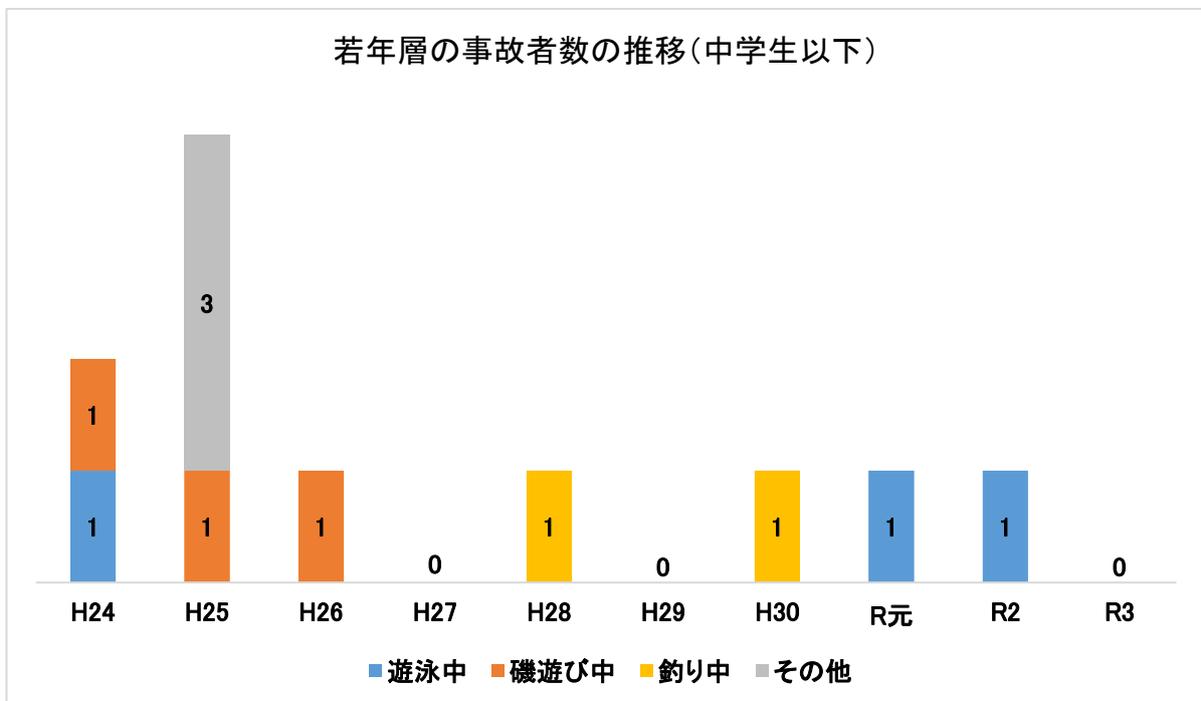
Ⅱ－7 釣り中の死亡事故発生状況〔過去10年（H24～R3）〕



- 過去10年、死亡事故の9割以上を海中転落が占めている。
- 海中転落で死亡した事故者の救命胴衣着用率は、非着用が6割以上を占めている。

Ⅱ－8 若年層の事故者数の推移〔過去10年（H24～R3）〕

図 2-11



- H25年を除き横ばい状態である。
- 昨年は4年ぶりに事故者ゼロ。
※グラフ内の数値は「人」、「その他」はビニールポート遊び中